

2011年2月修習技術者研修会／先端複合技術研究発表会（案）

1. 日時： 2011年2月19日(土) 13:00~20:00
2. 場所： 葺手第二ビル5階 AB会議室
3. 今月の課題とテーマ 【課題】 「専門技術能力」
【テーマ】 「新エネルギー技術動向」、「IT」
4. 今月の実施概要
 - (1) 研修会講演
 - (1)-1 講演1：エコ・エネ・リサーチ 井原 博之 氏
 - (1)-2 講演2：三菱重工業（株） 浜崎 学 氏
 - (1)-3 講演3：ニューロネット（株） 前川 博文 氏
 - (2) 先端複合技術研究会（3名の修習技術者の発表を予定）
 - (3) 会費
 - ・ 準会員 B、平成22年度技術士第一次試験合格者、
JABEE 認定課程在学生及び学生、大学院生：1,000円
 - ・ 正会員：2,000円
 - ・ 上記以外（非会員）：3,000円
 - ・ 情報交流会参加費：1,000円追加
5. タイムスケジュールと講演／発表内容

5.1 タイムスケジュール

時間	内容
13:00~13:05	開会挨拶 (社)日本技術士会 修習技術者支援実行委員会 委員長 小林 進 氏
修習技術者研修会	
13:05~14:00	講演1：「グローバルな視点でのエネルギー技術動向（世界的な情勢と将来予想）」、エコ・エネ・リサーチ 井原博之 氏
14:00~14:55	講演2：「低炭素社会の基幹エネルギー源、原子力の実力と課題(仮題)」、三菱重工業（株） 浜崎 学 氏
14:55~15:05	休憩
15:05~16:00	講演3：「次世代映像コラボレーションと新しいワークスタイルで21世紀型エネルギー低消費社会を」、ニューロネット（株） 前川博文 氏
先端複合技術研究発表会	
16:00~18:00	発表会
18:00~20:00	情報交流会

※上記プログラムは当日変更となる場合があります。御了承ください。

5.2 修習技術者研修会：講師プロフィールと講演概要

5.2-(1) 講演 1：「グローバルな視点でのエネルギー技術動向（世界的な情勢と将来予想）」、エコ・エネ・リサーチ 井原 博之 氏

【講師プロフィール】

1962年京都大学工学部工業化学科卒業。三菱石油（株）（現新日石）研究部入社。開発研究所長・開発部長を経て、95年和興産業（株）（現和興フィルタテクノロジー（株））取締役技術本部長。現在、技術士事務所 エコ・エネ・リサーチ代表。（社）日本技術士会近畿支部修習委員。秋田大学非常勤講師。専門は環境とエネルギー技術、MOTなど。技術士（化学部門）。

【講演概要】

石炭・石油・天然ガスの3つ化石燃料を並べてこれまでの推移と特徴を述べ、中でも石油資源に重点を置いて、技術の動向を述べると共に、新エネルギーならびに原子力を含めて今後の動向を予想する。なお、化石燃料に関しては、オイルサンド、オリノコタールも含めて述べると共に、メタンハイドレートについても紹介する。

5.2-(2) 講演 2：「低炭素社会の基幹エネルギー源、原子力の実力と課題（仮題）」、三菱重工業（株） 浜崎 学 氏

【講師プロフィール】

三菱重工業株式会社 原子力事業本部 原子力技術部原子力技術企画課長。技術士（原子力・放射線）H.18年。

大学入学から現在まで、30年以上、一貫して原子力に携わる。軽水炉（PWR）の炉心設計、燃料サイクル施設の安全設計に主に携わり、日本原燃への出向中には、六ヶ所再処理工場の安全審査、科学技術庁/文部科学省への出向中には、アジア諸国との原子力協力行政に従事。現在は、原子力技術全般に関する技術開発管理、技術教育、技術広報活動等に従事。

【講演概要（変更の可能性あり）】

ここ数年、原子力カルネッサンスとして騒がれている原子力について、まず、基幹エネルギー源としての実力について述べる。技術動向を含め、最近の国内外の動きについて紹介する。また、原子力技術が抱える諸課題について述べ、技術士としてどう向き合うべきかについて、考えるところを述べる。

5.2-(3) 講演 3：「次世代映像コラボレーションと新しいワークスタイルで21世紀型エネルギー低消費社会を」、ニューロネット（株） 前川博文 氏

【講師プロフィール】

ニューロネット株式会社代表取締役。技術士(情報工学)文部科学省 1996。

I T外資系の日本法人複数社を代表取締役として立ち上げ後、独立行政法人産業技術総合研究所（産総研）において、研究成果、知的財産のベンチャー事業化を、招聘スタートアップアドバイザーとして指導にあたる。産総研在籍中、京都大学講師だった久保田博士の研究に着目し、インターネットサービス SaasBoard 事業起業。SaasBoard で『移動』を減らし、劇的経費削減、地方と中央の格差縮小、CO2 排出削減、社会インフラ依存低減を推進している。

【講演概要】

資源、人、資本を地域的に集中させて富を得る 20 世紀型の産業形態には限界が来ています。今後は 21 世紀型の産業形態（働き方）への移行が必須です。限界の表出現象として、CO2 排出問題、エネルギー問題、都会と地域の格差問題、途上国の産業追い上げ（高価格問題）、少子化社会、知価社会への価値移行などがあります。

これらの問題に『移動を減らす』ということが大きく貢献します。例えば通勤不要（最小化）を仮説すれば、交通、不動産、電力等の社会インフラへの過度な依存を減らし、結果、低エネルギー消費社会、クリーン社会、地方と中央差の無い社会、女性の力の再活用、等々の社会が実現します。社会的なしくみとして、Web 会議をコラボレーションインフラとして使うことでこれらが実現するでしょう。